

令和3年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和4年3月4日(金) 午後7時30分 開会 午後8時10分 閉会
場所	ZOOM会議
出席者氏名	大木教久委員長、松井久芳委員、佐藤崇委員、加納健司委員、山口哲也委員、小笹貴夫委員、菅原一朗委員、大久保敦子委員、山本秀永委員、佐藤貴之委員 事務局(望月病院長、藤浪副院長、栗山中央診療部長、益原診療部長、山岡看護部長、坂本患者支援センター所長、岩澤事務局長、岡野がん相談専従看護師、小川病院経営企画課長、内田医事課長、猪瀬医事課副主査)
資料	・地域医療支援委員会次第 ・資料1-1 紹介率・逆紹介率 ・資料1-2 診療科別紹介率・逆紹介率 ・資料1-3 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 ・資料1-4 予約検査の件数表 ・資料1-5 患者支援センター相談実績 ・資料1-6 地域医療機関と連携した研修会等実績 ・資料1-7 登録医救急診察専用回線集計表 ・資料1-8 地域医療研修会 ・資料2 がん相談支援センター実績報告 ・資料3-1 医療機関別救急車搬送患者受け入れ状況 ・資料3-2 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

＜午後 7 時 3 0 分 開会＞

○事務局（坂本患者支援センター所長）

皆様こんばんは。委員の皆様におかれましては、お忙しいところ茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより令和 3 年度第 4 回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開催いたします。委員数 10 名に対しまして、本日は今現在、9 名の委員にご出席いただいておりますので、委員会が成立いたしますことをご報告いたします。これより先の議事進行につきましては大木委員長にお願いいたします。大木委員長、よろしくお願いいたします。

○大木委員長

円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題（１）の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（患者支援センター坂本所長）

それでは、令和 3 年 4 月から 12 月までの患者支援センター業務実績について、坂本より説明させていただきます。

資料 1－1 をご覧ください。紹介率・逆紹介率の表です。令和 3 年 4 月から 12 月の紹介率の平均は、75.3%、逆紹介率の平均は、79.8%です。令和 2 年度平均と比較して初診患者数、紹介患者数、逆紹介数共に約 150～200 人ほど増加しています。地域医療支援病院の承認要件である紹介率 65%以上、逆紹介率 40%以上の基準を満たしております。

資料 1－2 をご覧ください。令和 3 年 12 月と、令和 3 年 4 月から 12 月の累計、診療科別紹介率・逆紹介率の表です。4 月から 12 月の累計で見ますと、紹介率は、放射線治療科、腎臓内科、循環器内科の順に、また逆紹介率は、腎臓内科、放射線治療科、循環器内科の順に高くなっています。この順番は例年通りとなっています。

資料 1－3 をご覧ください。令和 3 年 4 から 12 月の累計、紹介元・逆紹介先医療機関一覧です。紹介元は、医療機関名と紹介患者数、その内の検査件数を表しています。紹介元および逆紹介医療機関共に、やまもと内科クリニック、大木医院、藤川整形外科の順に多くなっています。

資料 1－4 をご覧ください。予約検査の件数表です。令和 3 年 4 月から 12 月の実績です。前年度の 75%に達しているかが目安となりますが、RI、マンモグラフィ、骨密度検査以外は全て 75%を越えています。その中で特に、頸動脈エコー、筋電図、栄養指導は大きく増加しています。栄養指導はリピート指導の増加が件数に表れています。土曜日の検査予約につきましては、4 月から 12 月までに 96 件の紹介があり、前年度同月と比較し 36 件増加しています。

資料１－５をご覧ください。令和３年４月から１２月までの月別相談延べ件数表です。相談には、看護師と社会福祉士が対応しています。相談対応総数は１０,７５５件で、相談内容の多い項目としては、転院に向けての退院相談が最も多く、次にほぼ同数で在宅退院の相談、次に看護相談の順となっています。今年度は、転院相談がやや増加傾向にあります。

資料１－６をご覧ください。地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。４月から１２月までに１３回開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の落ち着いた時期と重なったため、今年度は、「茅ヶ崎周産期連携カンファレンス」「内科・外科医会症例検討会」の１回目は開催できています。今後は、コロナ感染症の状況によって開催していきます。

資料１－７をご覧下さい。令和３年４月から１２月までの登録医救急診療専用回線の対応件数となります。対応数は２５８件で、そのうち入院になったケースが１０８件で約４０％となっています。回線の目的にあった患者さんのご紹介を多くいただいています。診療科では小児科が最も多く、次に内科一般となっています。入電時間は、午前中は１１時台、午後は１６時台が最も多くなっています。これからもなるべくお待たせすることなく、速やかにご指名の担当科医師につなげられるよう努めて参ります。

資料１－８をご覧ください。令和３年度第１回目の地域医療支援研修会の資料となります。コロナ禍のため紙面による研修会としました。講師は、皮膚・排泄認定看護師の小原が担当し、なるべくご要望に沿った内容をお伝えできるよう事前にアンケート調査を行いました。その結果を踏まえ４つの項目を中心に資料を作成し、CD-Rの形で配布しました。研修後のアンケートでは、研修内容について、「活かされる内容であった」が９１％となっており、地域看護における支援につながったと考えます。今回の研修をきっかけに、皮膚・排泄認定看護師が地域への貢献を拡大していけるよう取り組んでまいります。第２回目の地域医療支援研修会は、講師をがん相談専従看護師と緩和認定看護師が担当し、事前アンケートに基づいた研修内容で準備中です。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（１）について委員の皆様からご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

特にないようですので議題（１）は終了したいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（１）は以上をもちまして終了といたします。次に議題（２）のがん相談支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（岡野がん相談専従看護師）

がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願い申し上げます。それでは、令和３年４月～１２月までの９ヶ月間の業務実績について説明いたします。資料２をご覧ください。相談件数は、９ヶ月で延べ７３３件です。前年度と比較

しますと 211 件減少しています。コロナ禍の影響かは不明ではありますが、相談件数が減少していました。支援方法は、対面相談が 482 件、電話面談が 251 件です。相談依頼ルートは、患者さん自身が一番多く 306 件、次にご家族が 199 件、医師からの依頼が 109 件、看護師より 41 件ありました。

次に、相談内容の内訳は、がんの治療について 217 件、症状・副作用・後遺症の相談が 309 件、在宅医療 184 件、ホスピス・緩和ケア 109 件でした。抗がん剤開始前の副作用への不安や抗がん剤治療中に食事がとれなくなったがどうしたらいいかなどの対応に対して患者ご本人はもとより、ご家族からも相談があります。必要時外来受診をしていただくなどのご案内をしています。今後も引き続き多職種にがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえるよう周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（２）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

僕からですけど、令和３年度にがん相談支援センターの相談実績が減ってますよね。特に夏頃から１２月にかけて令和２年度に比べても減っている。令和２年度と令和３年度のコロナの感染状況は違うと思うんですけど、コロナ禍というのは同じだと思うので、そこで減ってきた理由は、がん患者さん自身が茅ヶ崎市立病院の受診総数が減っていることで相談件数が減っているのか。茅ヶ崎市立病院としては、どのような分析をしているのでしょうか。

○事務局（栗山中央診療部長）

中央診療部長の栗山です。よろしくお願いします。細かいがんの患者さんがコロナ禍で減ったかどうかのデータはないですが、特にコロナ禍だから去年から比べてがんの患者さんが減っている印象はないです。なぜ減ったのかというところではありますが、今まで通り啓蒙活動はしているつもりではありますので、私としては原因があまり思い浮かばないのが現状です。

○大木委員長

相談件数が減るのはあまりいいことではないと思っています。いくつかコロナ禍の影響で考えているのが、肺がん学会の方ではコロナ禍でがん検診が少なくなった。それで実際肺がんの手術の件数が減った。化学療法や放射線療法も減っているとのデータが日本でも発表されています。約 6% 減少した。新規の肺がん患者さんが減っている。これは全国規模なのか。今、茅ヶ崎医師会の中では、在宅支援研究会の方ではがん看取りの数が増えた、看取り率が非常に増えたということで、大きな病院から直接看取りということで在宅の先生に渡ってしまっている可能性があるかと思われます。在宅の看取り率が上がっているのは全国的な問題とも我々は聞いています。

○大木委員長

他に質問などございますか。

○大木委員長

特に質問がなければ、議題（２）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（３）の救急搬送状況について事務局より説明をお願いします。

○事務局（内田医事課長）

それでは、医事課内田よりご説明させていただきます。資料は３－１でございます。上段の表をご覧ください。こちらは、今年度１２月までの茅ヶ崎市消防の搬送件数を搬送先医療機関別に月ごとに集計したものでございます。一番右側平均の欄でございますが、１２月までの９ヶ月の平均で月９１７件のうち３１１件、割合は３３．９％が市立病院に搬送されております。次に湘南藤沢徳洲会病院が２５１件２７．４％、湘南東部病院１３．６％、茅ヶ崎徳洲会病院の１３．０％の順になっております。なお、市立病院への搬送件数につきましては、令和２年度と比較しますと３．３ポイントの減少となっております。中段の表につきましては、同様に寒川町消防の搬送件数を集計したものでございます。月平均１８２件のうち３４件、１８．８％が市立病院に搬送されており、市立病院は湘南東部病院３３．５％、湘南藤沢徳洲会病院２０．７％、に次いで３番目となっております。下段の表につきましては、診療科別に救急車搬送件数を表したものでございます。内容については後ほどご覧いただければと思います。

次に資料３－２をご覧ください。こちらは、令和３年度の１２月までの茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数を地区別に分類したものでございます。表一番下段の左側の茅ヶ崎地区の合計件数２,４８１件のうち、７５０件が市立病院に運ばれており、割合は２６．８％となっています。以下、鶴嶺地区からは８８８件で３１．８％、松林地区からは１,０１９件で３６．５％、小出地区からは１２９件で４．６％、その他寒川町等からは８件で０．３％となっています。また、各地区の搬送件数における市立病院への搬送件数の割合は、茅ヶ崎地区で３０．２％、鶴嶺地区３６．８％、松林地区３５．４％、小出地区２９．１％となっています。説明は以上でございます。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（３）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

例年通りですね。他に質問がなければ議題（３）は終了したいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（３）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（４）のその他について、委員の皆様、事務局より何かございますか。

○事務局（患者支援センター坂本所長）

事務局の栗山中央診療部長より報告がございます。

○大木委員長

よろしくお願いします。

○事務局（栗山中央診療部長）

中央診療部長の栗山です。よろしくお願いします。3月15日から当院で新しい化学療法室がオープンします。元々内視鏡室があった場所になります。広さが140平米で今までの3倍の広さになりますし、ベッド数も6床から11床に増えます。広いのでベッドの間隔は充分にとれる広さとなっています。抗がん剤の点滴でも、より快適に過ごすことができると考えています。茅ヶ崎市立病院では、コロナ診療はもちろんですが、がんなどのそれ以外の疾患の治療も今まで以上に積極的に行っていきたいと思いますので、ご紹介の程よろしくお願いします。

○大木委員長

消化器科を中心とした内視鏡センターを2階オープンして、今回抗がん剤ですね化学療法の。外来でできるというのは非常に喜ばしいことですし、充実するセンターが増えたということですね。是非、このセンターができたおりに利用率が気になるので、例えば消化器ですと麻酔ができて内視鏡ができるということは、けっこう患者さんが喜んでいます。患者さんが喜んでいて、けっこう利用に繋がるのではないかと考えています。そういったデータをこの場に出していただくと、新しくできた所が非常に活用されているということもわかると思います。外来でのがん治療というのは、非常に注目される場所でありますので、地域医療にとって非常に重要なファクターになると思います。どういう風に動いているのか我々に届けば一番いいと思います。

○大木委員長

他に医師会のメンバー、薬剤師会、歯科医師会から何かございますか。

○大木委員長

大久保先生、何かございますか。

○大久保委員

特にありません。

○大木委員長

松井先生、何かございますか。

○松井委員

情報提供になるんですけども、湘南鎌倉病院に、徳洲会ですけども昨年の7月から歯科口腔外科が開設されまして。そろそろこの茅ヶ崎地区の患者さんの獲得に動いているような状況です。あと、来年の3月には大磯の東海大病院を徳洲会が買い取るようですので、徳洲会が歯科口腔外科の方で、この湘南地区で動き出すのかなという予想が立てられるかと思います。だから、茅ヶ崎市立病院も頑張っって欲しいなというところです。

○大木委員長

情報ありがとうございます松井先生。他に医師会のメンバーから、小笹先生特にございませんか。

○小笹委員

一つ、今日の議題とは違うけれども、今の茅ヶ崎市立病院でのコロナの状況っていうのは、どのような状況か教えていただける範囲で教えていただきたいのと、現実病床は何床くらい使われていて、受け入れ体制としてはどの程度のコロナの重症度の方まで受け入れられるのかを教えていただけるようであれば教えていただけるとありがたいです。

○事務局（藤浪副院長）

現在、神奈川のフェーズで言うと災害特別フェーズということになっています。当院は、中等症以下17名、重症1名を受け入れることになっています。挿管が必要な重症は1名病床が空いていれば受け入れます。しかし、エクモがないので、エクモが必要となれば近隣で言えば藤沢市民病院へ転送することになります。ただ、オミクロン株になってからはエクモが急に必要というよりも、かなりご高齢の方が多いので、どちらかと言うと挿管までもしないようなケースの重症が多い印象です。もう一つ、当院の状況としてご存じの方もいると思うんですけども、デルタまではなんとか頑張ってきたんですけども2月21日にクラスターを起こしてしましまして。何で解ったと言うと、循環器内科の患者さんで、その日に転院の予定だった人を転院前に検査してくれと要望があり、検査したら陽性だと解ったと。つまり、コロナとしての症状も何もなく解ったと。ただ、その患者さんは入院して1ヶ月以上経っている人なので、これは医療者からうつった可能性があるということで関係する人間を調べたところ、看護師から6名、OTが1名見つかったと。これは大変だということでその病棟の患者さん全員を調べたところ、患者さんは7名。そこからポツポツと出てきて、看護師は3月3日は1名出て、それまでで13名。OTは1名のまま。患者さんは2月28日が最後ですが、そこまでで11名出ている状況です。その患者さんは、コロナ病棟に入っていた影響もあり、コロナ病棟は18床よりその時期はプラスアルファで入っていた状況であります。最初の2月21日に陽性になった方は、3月4日でちょうど10日過ぎたところなので、またポツポツと元の病棟に戻り始めた状況です。この後スタッフでどれだけ出るかわからくて。スタッフもこのクラスターと関係なくかなり陽性者も、濃厚接触者の方が多いと思っていたんですが、意外に陽性者がでるんです。子どもがかかって、そのまま濃厚接触者で済まなくて陽性となるスタッフも多くて、かなり各病棟厳しい状況です。入院の予定だった患者さんも2月21日からお断りして、重症あるいはどうして

も早く入院しなければならない患者さんだけ入院している状況です。あと 1 週間くらいすれば少しずつ戻って来るかなと思っています。現状はそういうところで、皆さん方にご迷惑をおかけしていますが、コロナ患者さんは定数で受け入れています。また病棟が空いていれば当然受け入れていきます。よろしくお願いします。

○大木委員長

最後に望月先生何かございますか。

○事務局（望月病院長）

今、副院長から話があったようにずっと頑張ってきて。患者さんも職員も陽性がコロナエリアからも出たんですけども、ずっと単発ですんでいたのは職員が隣に陽性者がいてもうつされるな、自分が陽性でもうつすな、という形でずっと頑張ってきてくれたんですけども。今回のオミクロンに関しては、高齢者ですと重症になってしまうんですけど、通常の患者さんないしは、健全な人ですとほとんど症状がないか軽症ですむのは、言われている通りです。逆にサイレントで拡がって行く怖さがあります。実際、職員から出たのも 3 回目の接種をしているんですけど、それでもやはり陽性になっています。もちろん軽症ではすむんですけど、感染はワクチンを 3 回打ってもしないわけではないし、けっこうする。デルタまでに比べると、ワクチンの感染を防ぐ効果は弱いのではないかとの印象を持っています。皆さん注意をしていただきたい。受け入れは、神奈川モデルに沿って行っていますので必要な場合は連絡をいただければと思っています。保健所とも連絡を取り合って、今週から市議会から始まっていますが、保健所長とも会って話をするんですけども、ものすごい数の自宅療養者が出ていると思うので、先生方も頑張っていると思うんですけども。だいたい 30 人くらいが、医師会の先生方にチェックをしていただいている、ファストドクターにお世話になっているのは 10 人に満たないとの話でした。やはり、デルタと違って本来入院が必要なのに自宅で、との人はかなり少なく抑えられていると思います。なんとか新規感染者が早く減って来れば、早く減るかと思っています。思いの外、入院患者さんが減らないというのが現状です。今、副院長からあったように市立病院は頑張っていますので、よろしくお願いします。

もう一点、2022 年度の診療報酬改定で、どういう意味合いで持ってくるかわからないですが、重点的に外来をやっている紹介受診重点医療機関が入って、地域医療支援病院とどのような関係になるかわかりませんが、外来レベルも基幹病院は専門的な外来に持って行けというのが更に強くなってくると思います。益々、病診連携をしっかりとやっていかなければならないと思っています。もう少し詳しくわかってきたら、次のこの回でもまた色々お願いしなければいけないと思います。よろしくお願いいたします。

○大木委員長

他に何かございませんか。

○大木委員長

特になければ、本日の議題はすべて終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。以上をもちまして、令和３年度第４回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。お疲れ様でした。